



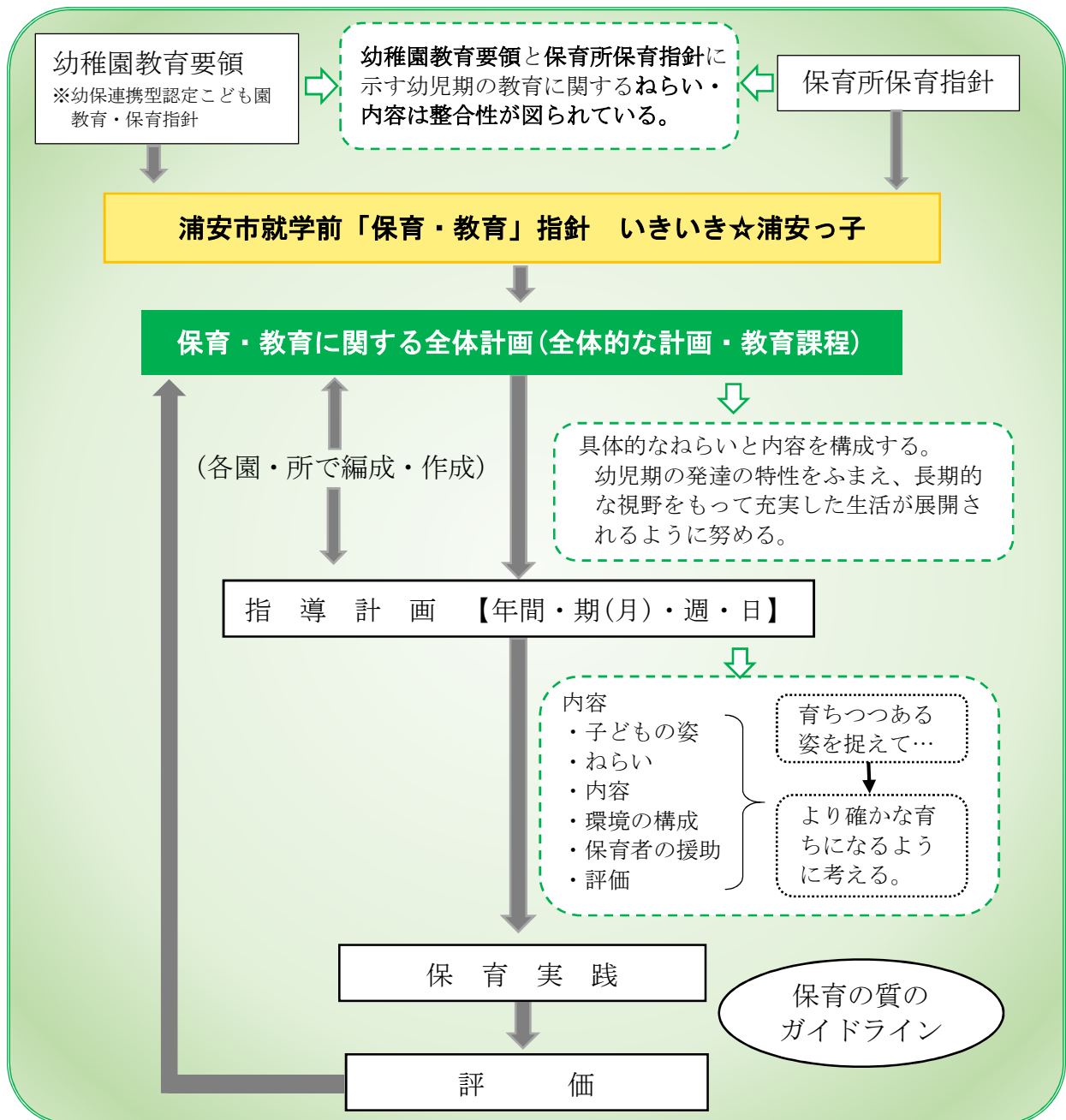
第Ⅲ部
保育・教育課程

第Ⅲ部 保育・教育課程

1 保育・教育課程の実践

保育所保育指針・幼稚園教育要領は、保育園・幼稚園・認定こども園の教育（保育）の基本と保育内容を示したものです。これをもとに各園が全体的な計画・教育課程を構成し、さらに具体的な指導計画を作成します。

それに基づいて保育を実践・評価して次の計画に反映させ改善を図ります。



※ 保育・教育の実践を支え、本市の就学前「保育・教育」環境の充実を図るため、保育者に対する研修に積極的に取り組んでいます。

今後も引き続き研修に取り組むとともに、本指針の内容の実現に必要な能力を育成するため、保育士、幼稚園教諭、保育教諭を問わず、広い視野や就学前保育・教育の専門性を高める研修プログラムの構築を目指します。

2 保育・教育課程の見方

保育・教育課程の項目の見方は次のとおりです。

浦安市の育てたい子ども像の視点

- * 【4つの観点からなる子ども像】の視点から
 - ・主体的な学び（知）
 - ・自他を尊重する心（徳）
 - ・健やかな体（体）
 - ・豊かなかかわり（愛着・信頼関係・身近な環境への親しみ）
- * 【0～2歳児】の視点から
 - ・生活（主に養護の部分から・・・）
 - ・体（手、指、体の発達から・・・）
 - ・知的（体の発達から連動して・・・）
- * 【3～5歳児】の視点から
 - ・心情（充実感、満足感を味わう・・・）
 - ・意欲（「～しようとする」・・・）
 - ・態度（物事への積極的な取り組み姿勢・・・）

5歳児 発達過程 I期

子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・あげようという姿勢 ・気の合う友達や保育者 ・新しい生活のルールを 	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい環境に自分から ○自分のやりたい遊びを ○年長児としての生活の 	
経験する内容	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外で体を動かして十分 ・安全に道具や用具を使 ・園生活での決まりを確
	人とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい保育者や友達に ・異年齢の子どもに親
	身近な環境とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・気の合う友達と一緒に ・鬼ごっこやゲームなど
	情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な動植物に親しみ、触れ ・身近な自然の変化に興味や関心をも
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物を遊びに取り入れて遊ぶ。 ・日常生活の中で目にするマークや表示の意味が分かり、文字や数に興味をもつ。 ・自分の気持ちや考えを伝えたり、相手の話を聞こうとする。 ・友達と一緒に歌を取ったり、曲に合わせて踊ったりすることを楽しむ。 ・いろいろな材料を使って、自分のイメージに合わせて作る。
感性と表現		
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと共に生活の場を作り、新しい約束事を作っていこうにする。 ・道具や生活に必要なものの置き場は分かりやすく表示する。 ・自分のしたい遊びが、十分にできる時間と場所を保障していく。 ・友達と一緒にする楽しさが感じられるよう、クラス全体で活動する時間や ・園内外の安全衛生に十分配慮し、快適に過ごせるよう、生活の中で繰り返し ・園庭や近隣の公園の自然に触れる機会をもち、植物などにも興味や関心が向け
	【保育者のかかわり】	<ul style="list-style-type: none"> ・進級した喜びに共感するとともに、緊張や戸惑いの気持ちも十分受け止め、もって過ごせるようにする。 ・個人差を考慮し、一人一人の様子を把握して個々の情緒の安定を図り、好きな遊 ・り組めるようにする。 ・友達を意識できるような言葉かけをし、保育者が仲立ちとなって言葉を補ったりして、友 ・達との遊びが十分楽しめるようにする。 ・他クラスと連携をとりながら、異年齢の子どもとのかかわりをもてるようにする。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や姿勢など、気持ちよく食事をするためのマナーに、子どもが自分で気づいたり、正そうとしたりしている姿を認めながら、食事の楽しさを味わえるようにする。 ・子どもが自分で野菜を栽培する経験ができるよう、土や肥料・種・苗などを用意する。 ・植えた野菜に水やりをしたり、成長の様子を観察し、それを図鑑で調べたりできるよ うな環境を整え、収穫を期待して大切に育てられるようにする。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度のねらいや方針を懇談会やおたより等で家庭に伝え、理解を求め、園と家庭が同じ気持ちで子どもにかかわってもらえるようにする。 ・子どもの様子を連絡帳や送迎時に伝え合い、保護者との信頼関係を築いていく。 ・進級することには、喜びだけでなく、戸惑いや不安を感じることもあることを伝え、共感したり、励ましたりして、子どもの気持ちを支え合っているようにする。 	

「食育」に関する視点

「食育」に関する視点は、次の観点から取り上げています。

- ・「全身・手指の動き」
- ・「基本的生活習慣」
- ・「食育」「安全保健教育」「規範意識」「人の話を聞く」「地域との連携」等

3 年齢ごとの期分け

0歳～2歳			3歳～5歳				
年齢・学年	期		年齢・学年	期			
0歳		I	～56日「誕生の頃」	3歳	I	4月～6月上旬	
		II	～3ヶ月「ねんねの頃」		II	6月上旬～9月上旬	
		III	3ヶ月～「首がすわる頃」		III	9月上旬～10月下旬	
		IV	6ヶ月～「おすわりの頃」		IV	10月下旬～12月	
		V	9ヶ月～「はいはいの頃」		V	1月～3月	
1歳		I	1歳～1歳6ヶ月未満	4歳	I	4月～6月上旬	
		II	1歳6ヶ月～2歳未満		II	6月上旬～9月中旬	
		III	2歳～2歳6ヶ月未満		III	9月中旬～10月中旬	
		IV	2歳6ヶ月～3歳未満		IV	10月中旬～12月	
2歳			I	4月～6月上旬	5歳	I	4月～6月上旬
			II	6月上旬～9月上旬		II	6月上旬～9月中旬
			III	9月上旬～12月		III	9月中旬～10月下旬
			IV	1月～3月		IV	10月下旬～12月
			V			V	1月～3月

4 特色のある保育

(1) 地域との連携について

子どもたちが様々な人や事柄と出会う中で、身近な人や環境に親しみをもち、『ふるさと浦安』を感じることができるよう、各園で周辺の地域資源を活用し、近隣施設と連携した活動の充実を図り、地域の人たちとの交流活動を通して地域への愛着を育むことが大切です。

《社会に開かれた教育課程》

地域の方との交流

近隣にお住まいの方との関わりを通して
社会性を育む

- ・ 地域自治会、高齢者施設
(伝承遊び、野菜栽培、花植え、餅つき、
纏見学、神輿、祭参加 獅子舞 等)
- ・ スポーツ体験 (サッカー、運動公園) 等

＜神輿・纏（まとい）見学＞



近隣施設の活用

地域資源の活用と歴史、文化への理解を育む

- ・ 郷土博物館 (昔遊び、浦安の歴史体験)
- ・ 公民館、図書館
(作品展、館内利用、読み聞かせ)
- ・ 商業施設 (買い物体験) 等

＜図書館内利用＞



地域の中の園

計画的に交流を積み重ね、
関わる人・施設・園とで
ねらいを共有し、連携して
いく

園種を越えたつながり

同じ地域で育つ子どもたちが、人間関係を
スムーズに構築できるようにする
(保育園・幼稚園・こども園)

- ・ 園訪問 (園庭での戸外遊び・水遊び、
室内遊び、ホール遊び 等)
- ・ 園内行事への参加、行事後の再現
- ・ リズムやゲーム等を行う交流会 等

＜保育園・幼稚園の交流＞



学校とのつながり

異校種間での連携による、乳幼児期から
学童期への学びの連続性の保証

- 小学校とのつながり
 - ・ 交流活動 ・ 学校探検 ・ 校庭の利用
 - ・ 生活発表会 ・ 模擬授業 ・ 給食体験
- 中学校・高等学校とのつながり
(職場体験・家庭科保育学習) 等

＜小学校への二次避難訓練＞



＜中学生の職場体験＞



その他の取り組み；施設長連絡会、小学校教諭の講話、授業や保育の相互参観、園庭開放
子育てサロン、防犯教室、交通安全教室、公園の活用、消防署見学 等

(2) 食育について

食は、子どもが豊かな人間性を育み、生きる力を身に付けていくために、また、子どもの健康増進のために重要です。各園では、食育の基本となる「知育・徳育・体育」の食育基本法を踏まえ、乳幼児期における望ましい食に関する取り組みを、積極的に進めることが求められています。

食育の推進

体験的な食育と食の巡回

食材に触れたり調理をしたりする機会や食物の栽培を通して、命を大切にす
る気持ちや調理をしてくれる人への感謝の
思いが育まれるようにしていく。



<栽培した野菜で
カレー作り>

栄養士の専門性と食育計画

栄養士等の専門性を生かし、乳幼児期に
ふさわしい食習慣や態度が育まれるよう
、食事の提供を含む食育計画を、全体
的な計画(教育課程)に基づいて作成し
、評価、改善に努める。

食事を楽しむ

友達や保育者と一諸に和やかな雰囲気
の中で食べる喜びや楽しさが感じられ
るようにすると共に、食への興味や関心
が得られようにしていく。食欲がわくよ
うに、活動のバランスを考える。



<調理員と交流>

配慮が必要な子ども等の個別援助

嘱託医やかかりつけ医、専門職の指示と協
力の下、一人一人の子どもの状態に応じて
適切に対応する。
全職員が、目標や内容、食物アレルギー等
配慮すべき事項を共通理解し、誤食、誤飲
の事故防止及び対応に努める。

保護者や地域との連携

保護者との情報共有や関係機関から
の情報収集等、日頃から連携を重ね、
様々な協力が得られるように努める。
主体的かつ多様に連携、協働した取り
組みを推進していく。

<幼稚園教育要領・保育所保育指針より一部引用>

参考：「食に関する制度」

- 児童福祉施設等における食事の提供ガイド (令和7年策定)
- 楽しく食べる子どもに (平成16年策定)
- 保育所におけるアレルギー対応ガイドライン (平成31年策定)
- 浦安市食育推進計画の推進 健康うらやす21 (平成31年策定)

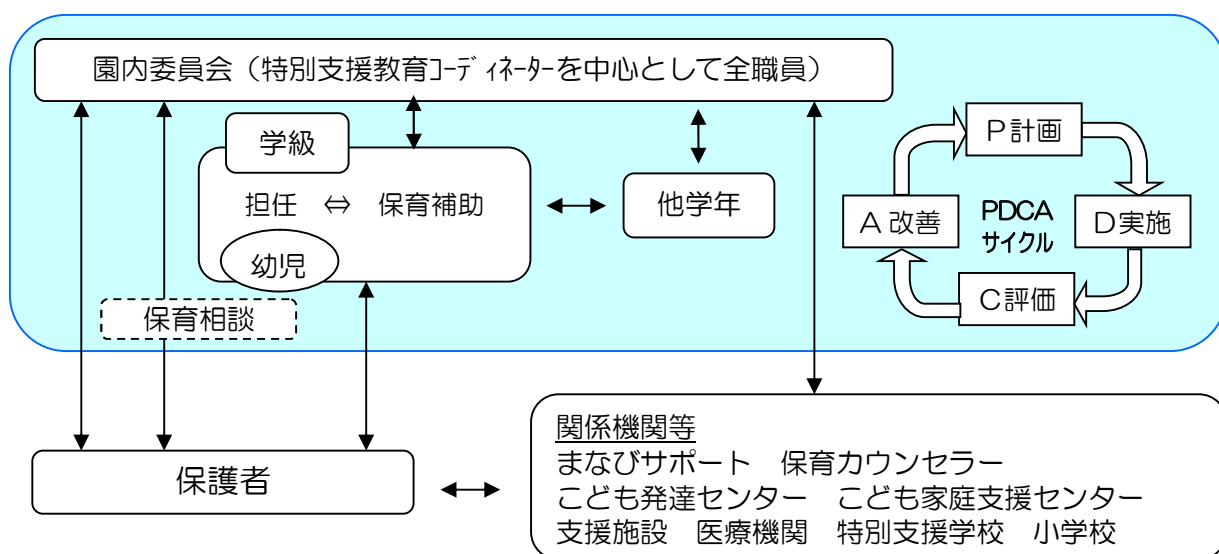
(3) 特別支援教育について

特別な支援を必要とする子ども[※]の可能性を最大限に伸ばし、生活するために必要な生きる力の基礎を培うために、保護者や関係機関との連携を図りながら、一人一人の教育的ニーズを正確に把握・対応し、よりきめ細やかな保育・教育を行うことが大切です。そのためには、発達や支援を必要とする状況を把握し、子どもにとって最善は何かを追求し、集団生活を通して成長することができるよう個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成することが必要です。計画の作成は、保護者と信頼関係を築きながら、保護者の子どもへの思いや願いを受け止め、支援方法を園と共通理解して作成していきます。

※特別な支援を必要とする子どもとは、「発達に課題がある」「障がいがある」「医療的ケアが必要である」等の乳幼児をさす。

<支援体制> (保育園・幼稚園・認定こども園)

- 全職員の共通理解を図るとともに、関係機関等と連携しながら「特別支援教育」を行う。
- 一人一人の教育的ニーズへの対応と連続性のある「多様な学びの場」の構築を行う。



☆人的配置については、担任の補助として、保育園には**加配保育士**、幼稚園・こども園には**補助教員**を配置し、特別な支援を必要とする子どもの保育活動や生活面での支援を行っています。他にも、各園に配置されている**保育カウンセラー**と保育者や保護者が相談できる体制も整えています。また、就学期については、教育センターの**まなびサポート**との連携のもと、小学校入学に向けてのスムーズな移行を支援しています。

市立保育園・市立幼稚園・認定こども園では、副園長や主任教諭などを**特別支援教育コーディネーター**として位置づけ、園内や関係機関との連携協力を図っています。

<特別支援教育コーディネーターの役割>

- (1) 園内の関係者や医療・福祉などの関係機関との連絡・調整、保護者との関係づくりを行う。
- (2) 保護者に対する園の相談窓口となり、保護者を支援する。
- (3) 担任に対して、相談に応じたり、助言したりするなどの支援を行う。
- (4) 園内での適切な教育的支援につながるように、こども発達センターや教育センター(まなびサポート)などの専門の関係機関との連携を図る。
- (5) 園内体制の整備と、園内委員会が適切で円滑な運営がなされるよう推進役を担う。
- (6) 多様な教育的ニーズに応じた保育者の専門性を高める研修会などの企画や運営を行う。

(4) 特別な配慮が必要な家庭への支援について

① 外国にルーツをもつ幼児等の園生活への適応

国際化の進展に伴い、海外から帰国した子どもや外国籍の子どもに加え、国際結婚など、多様な文化や外国にルーツをもつ子ども一人一人に寄り添う援助が必要です。

(留意すべき事項)

- 海外から帰国した幼児や生活に必要な日本語の習得に困難のある幼児については、安心して自己を発揮できるように配慮するなど個々の子どもの実態に応じ、指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行います。
- 子どもの国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるようにします。

(保育の中で配慮する点等)

- ・異文化における生活経験、在留国や母国の言語的・文化的背景、さらには家庭の保育・教育方針の違いなど、一人一人の実態を把握します。
- ・指導方法や指導内容の工夫を組織的かつ計画的に行うとともに、全職員で共通理解を深め、子どもと保護者に関わる体制を整えます。
- ・保育者は、その子どもが暮らしていた国を理解しようとする姿勢を保ち、簡単な挨拶等母国語を使用したり、スキンシップをとったりしながら信頼関係を築き、子どもの安心感につなげていきます。
- ・保育者は、子どもや家庭の多様性を積極的に認め、子ども同士が互いに尊重し合える雰囲気作りに努める中で、一人一人がかけがえのない存在であるということに気付くよう促していきます。

② 虐待が疑われる家庭および貧困家庭への支援

虐待等が疑われる場合には、園は速やかに関係機関に通告し、適切な対応を図ることが必要となります。また、子どもの貧困については、子ども自身の自己肯定感が低くなることを防ぐためにも、早期に気づき対応する必要があります。

(留意すべき事項)

- 虐待が疑われる場合には、園と保護者との間で子育てに関する意向や気持ちにずれや対立が生じうる恐れがあることに留意します。貧困家庭への対応については、関係機関とつなぐ際に、子どもと保護者の自尊心を傷つけない等の配慮が必要です。

(保育の中で配慮する点等)

- ・日頃から保護者との接触を十分に行い、保護者と子どもとの関係に気を配り、気づきの目を養います。さらに、市や関係機関との連携の下に、子どもの最善の利益を重視して支援を行います。
- ・貧困については、外見だけでは判断できないことが多いので、保育者はこのことを正しく理解し、目の前の事実だけに目を向けるのではなく、子どもや保護者の気になる姿の背景にあるものを読み取ろうとする視点をもつことが大切です。

5 浦安市の保育・教育課程

0歳児 発達の過程

I期「誕生の頃」(~ 56日)

<p>子どもの姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・眠っている時間が長い。眠りの間隔は短く、昼と夜の区別がはっきりしない。 ・泣きの理由は眠り、空腹、排泄等生理的なものがほとんどである。 ・へその緒は生後1～4週間でとれる。 ・生後2、3日頃から新生児黄疸が見られる場合がある。 ・体温調節機能がまだ上手くいかず、周りの温度に左右される。 ・動きが活発になり、裸にすると手足をよく動かす。 ・握ったものを少しの間持つことができる。 ・音は聞こえている。(大人が話しかける言葉を聴いている) ・明るい、暗いは分かり、明るい方を見ようとする。 ・物の輪郭はぼんやり見え、特に人の顔はよく見える。 ・生理的な微笑が見られる。 ・機嫌のよい時は「あーあー」「うっくん」等の声を出すようになる。
<p>室内環境のポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔で静かで、安心して眠れる環境を用意する。 ・ベッドの周りに物を置かないようにする。また、赤ちゃんの顔に被るような物を近くに置かないようにし、安全に気をつける。 ・常に眠っている子どもの様子が見えるようにする。 ・体温調節が未熟で筋肉や皮下脂肪が薄く、汗腺の発達が不十分であるため、室温、湿度、寝具、衣服等、快適な環境に配慮する。 *冬は20～23℃、夏は26～28℃、湿度は60%前後。

家庭へのアドバイス

- ・泣きの理由は「眠り」「空腹」「排泄」「暑い」「寒い」など生理的なものがほとんどです。声をかけたり抱っこしたりしてあげることで安心します。
- ・母乳やミルクをあげる時は、ゆったりした気持ちであげるようにしましょう。
- ・生後1か月前後くらいから、天候のよいときや赤ちゃんの機嫌のよいときには外気にふれさせることで、体温調節機能や免疫力の向上に繋がります。
- ・SIDS(乳幼児突然死症候群)の予防のために、以下のことを心がけましょう。
 - * 仰向けで寝かせる。
 - * 赤ちゃんを一人にしない。
 - * 赤ちゃんの近くで喫煙しない。
- ・乳幼児揺さぶられ症候群の予防のために、激しく揺さぶったり大きな衝撃を与えたりしないようにしましょう。
- ・眠っている時間が長い時期です。機嫌よく目覚めている時は赤ちゃんと目を合わせて微笑みかけたり話しかけたりしましょう。

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・お腹が空くと泣く。 ・オムツが濡れると泣く。 ・うつぶせにするとあごを上げる。 ・体重、身長が増加が大きい。 ・自分の手を見つめる。 ・物を目で追う。 ・音のする方を向く。 ・見つめ合い（アイコンタクト）が成立する。 ・目が合うと笑みを浮かべる。（社会的微笑）
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の生活リズムで、安定して気持ちよく過ごす。 ○保育者との関わりの中で心地よさを感じ、親しみと安心感を味わう。
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> 健やかにのびのびと育つ 身近な人と気持ちが通じ合う 身近なものに関わり感性が育つ
		<ul style="list-style-type: none"> ・抱かれてミルクを飲む。飲んだ後、ゲップをする。 ・オムツを替えてもらい、気持ちよく過ごす。 ・安心して寝入ったり、目覚めたりする。 ・外気に触れる心地よさを味わう。 ・うつぶせで頭を持ち上げる。 ・手に触れたものを握ろうとする。 ・動くものを目で追ったり、音のする方に顔を向けたりする。 ・あやされると声を出したり、微笑んだりし、四肢を動かす。 ・目の前にいる人の顔をじっと見る。
保育者の援助		<p>【環境の構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の生活のリズムに合わせて安心して眠れる環境を整える。（室温・湿度・換気・採光） ・明るく、心地よさと安らぎのある空間を整えるとともに、身近な環境の中に、見たり聞いたり、触ったりできる玩具を取り入れる。 ・うつぶせ寝は避け、顔の周りに布団や物（スタイ等）がなく、正常に呼吸ができる状態をつくる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>目で追って楽しめる遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オルゴールメリー・モビール </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>情緒の安定を図る遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子守唄・あやし遊び（いないいないばあ） </div> </div>
		<p>【保育者の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体機能が未熟で病気にかかりやすく、生命の危機に陥りやすいため、体の急激な変化に対応できるように、一人一人の子どもの状態を十分に観察する。 ・優しく微笑みかけたり、静かな声で語りかけたり等、視覚、聴覚に働きかけ、一人一人に合わせた表情や言葉、動きで相手をし、愛着関係を築く。
食育		<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりとした雰囲気の中で、目と目を合わせ、優しく言葉をかけながら授乳し、安心して飲めるようにする。 ・授乳後は、ゲップが出るまで抱いて過ごす。出ないときはベビーラック等で様子を見る。
家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や送迎時に子どもの様子を伝え合い、相互理解を深めるとともに保護者の不安を取り除き、信頼関係を築いていけるようにする。 ・SIDS（乳幼児突然死症候群）や乳幼児揺さぶられ症候群について正しい知識を知らせる。

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・昼と夜の区別がはっきりしてきて、睡眠と授乳、遊びのリズムが少しずつ安定期へ移行していく。 ・首がすわる。 ・寝返りをする。 ・見た物に手を伸ばす。 ・物や人の動きを目で盛んに追う。 ・口を動かして声を出す。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の心地よい生活リズムで安心して過ごす。 ○寝返りや腹ばいの姿勢等で、それぞれの発達にあった活動を十分に行う。 ○盛んに喃語を発し、声を出すことを楽しむ。 ○安心できる環境のもとで聞いたり、見たり、触ったりできる玩具で遊ぶことを楽しむ。
経験する内容	生命の保持・情緒の安定 健やかにのびのびと育つ 身近な人と気持ちが通じ合う 身近なものに関わり感性が育つ	<ul style="list-style-type: none"> ・昼と夜の区別がはっきりしてきて一定の時間眠る。 ・外気浴、ベビーマッサージで心地よさを感じる。 ・腹ばいの姿勢で手足を動かして遊ぶ。 ・動くものを目で追い、手を伸ばして握ろうとする。 ・指を口に入れたり、手に触れたものを見たりなめたりして確認する。 ・声や泣き声で要求を表す。 ・慣れた大人には自分から微笑みかけ、喃語で話そうとする。 ・あやされたり声をかけられたり、優しい語りかけや喃語に伝えてもらうことで、保育者に親しみ、安心感をもつ。
	保育者の援助	<p>【環境の構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝返り、腹ばいの姿勢等で、全身運動が安全にできるように環境を整える。 ・遊具等は子どもの発達に適したものを選び、触ったりなめたりしても安全なものを用意する。 ・清潔で安心して眠りにつけるような環境を整える。（室温、換気、採光、湿度、寝具等） <p> 手や指、体の機能の発達を促す玩具 ・プレイジム・握り玩具・がらがら・歯固め 情緒の安定を図る遊び ・子守唄・あやし遊び（じいじいばあ） </p> <p>【保育者の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心地よい姿勢で遊ばせながら、寝返りや腹ばいの機会をできるだけ多くつくるようにする。 ・笑ったり泣いたりする子どもの状態に優しく応え、発声に応答しながら喃語を育む。 ・一人一人の健康状態を十分に観察し、異常のある場合には適切に対応する。 ・優しくあやされたり、目を見て語りかけられたりする心地よさを味わえるように、1対1の関わりを大切にする。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・6か月を迎える頃には、離乳食開始前の準備や夏場の水分補給等として白湯や麦茶を口にしてみることで、母乳やミルク以外の味に親しめるようにする。 ・授乳を通して空腹に対する欲求が満たされる経験を重ね、食への関心につなげていく。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・SIDS（乳幼児突然死症候群）について注意を促し、事故が起きないように知らせる。 ・微笑や言葉かけ等、大好きな大人との関わりや、スキンシップ等の日々の心地よい体験が、子どもの心の安定や安心感につながることを伝える。 ・育児に対する不安や戸惑いを受け止め、保護者の話を聞くことでコミュニケーションを図る。 ・安定した生活リズムで過ごすことの大切さを伝える。 	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠時間が定まってきて、食事、睡眠、遊びのリズムが安定する。 ・おすわりができるようになる。寝返り、腹ばいの姿勢で移動する。 ・手でおもちゃを持つ、振る、持ち替える。 ・慣れない人に、人見知りをする。 ・「マンマンマン」「ダダダ」等の喃語を話す。 ・離乳食を食べ始める。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○姿勢を変えたり移動したり、体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ○保育者と十分に関わり、欲求を受け止めてもらうことで、親しみを持ち安定して過ごす。 ○離乳食を食べ始め、スプーンに慣れる。
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の生活リズムで安定して眠る。 ・離乳が進み、少しずつ食べる量が増え、いろいろな食品の味や形態に慣れる。 ・腹ばいで後ずさりをしたりお腹を軸に回ったり、おすわりをしたりする等、いろいろな姿勢になる。 ・おもちゃを振ったり落としたり、たたく等して遊ぶ。 ・親指と人差し指で小さなものをつまむ。 ・手に触れたものをなめて、確認する。 ・機嫌のよい時は、さかんに喃語で話し、遠くにいる人を呼ぶように声を出す。 ・不快な時は泣いて欲求を訴える。 ・人見知りをしたり、親しみをもっている人の後を追ったりする。
	経緯	<ul style="list-style-type: none"> 健やかにのびのびと育つ 身近な人と気持ちが通じ合う 身近なものに関わり感性が育つ
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢を変えたり移動したりと様々な身体活動を十分行えるように、安全で活動しやすい環境を整える。周りにマット等を置き、転倒時の安全を考慮する。 ・周囲への関心が広がり、触れる、なめる、たたく等、物への関心が高まるような環境をつくる。 ・なめた玩具は水洗い等して清潔に保つ。 ・子どもの手の届くところに危険な物を置かないようにする。 ・誤飲等を避けるために、口や鼻に入らないよう玩具の大きさ等に配慮する。
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症にかかりやすい時期なので一人一人の健康状態を十分に観察し、適切に対応する。 ・喃語に込められている要求や気持ちをしっかり受け止めて応じるようにする。 ・保育者との関わりを多くもち、不安、甘え等の気持ちを受け止め、優しく対応し、愛着関係を築けるようにする。
食育		<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、水分補給として白湯や麦茶を飲ませる。 ・スプーンを下唇にのせ、上唇で食べ物を自分で取り込めるようにする。食べ物を口に入れたら、唇を閉じたまま顎を上下に動かすことを保育者が見せ、食べ方を知らせる。
家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食は家庭との連携を大切にアレルギーに配慮しながら無理なく進め、食べようとする気持ちが育つようにする。 ・母体からの免疫がなくなり、病気にかかりやすくなるので、食欲、睡眠、排泄等、子どもの健康状態に変化が見られた時は丁寧に伝える。 ・予防接種、感染症等の情報を知らせる。 ・人見知りは、成長過程であり、愛情関係ができてからこそのことなので、十分受け止めるように伝える。

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食を手づかみで食べる。 ・はいはい、つかまり立ち、伝い歩きをする。 ・指先で物をつまむ。 ・手差し、指差しをして声を出す。 ・模倣をする。 ・自分の名前や「マンマ」「バイバイ」等、音声と対象が結びつく。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○はいはい、つかまり立ち等、体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ○身の回りのものに興味や関心をもち、探索活動を楽しむ。 ○大人と一緒に遊びながら、簡単な動作や言葉のやり取りを楽しむ。
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> 健やかにのびのびと育つ 身近な人と気持ちが通じ合う 身近なものに関わり感性が育つ
		<ul style="list-style-type: none"> ・一定時間安定して眠る。 ・離乳が進み、食べるものの種類が増え、自分から食べようとする。 ・天気のよい日は戸外で過ごす。 ・おすわり、つかまり立ち、伝い歩き、立つ、歩く等、一人一人の発達に合った動きをする。 ・つまむ、たたく、引っ張る等、手や指を使って遊ぶ。 ・生活や遊びの中で、身近な保育者のすることに興味をもち、模倣することを楽しむ。 ・喃語や片言を優しく受け止めてもらい、発語や保育者とのやり取りを楽しむ。 ・保育者と一緒に砂や水の感触を楽しむ。 ・他児の様子をじっと見つめたり、動きを目で追ったりする。 ・身の回りの生活用具に興味をもち、触ったり遊んだりする。
保育者の援助		<p>【環境の構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長い距離をたくさん動けるようになり行動範囲が広がるので、危険のないように環境整備をする。（不安定な物や角のある物は置かない） ・自分から「行ってみたい」「触れてみたい」と感じるように、玩具類に変化をもたせたり、工夫したりする。 ・誤飲、誤食を避けるため、口に入れて危険な物は手の届く場所に置かない。 ・生活の流れに合わせて、少しずつ時間差をつけて活動する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">手や指、体の機能の発達を促す玩具</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チェーン落とし・ソフト積木 ・カラートンネルなど </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">情緒の安定を図る遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうた・ふれあい遊び （一本橋こちょこちょ） </div> </div> <p>【保育者の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが表現したことを受け止め、優しく、ゆっくり、はっきりと応えたり、話しかけたりする。 ・ボール転がしやリズム遊び等、1対1のやり取りを楽しめるようにする。また、安定している時は見守る。 ・伝い歩きが始まるが、ほうことも十分に経験できるようにする。 ・子どものやりたい気持ちを大切にして、安全な環境を整え、すぐに対応できるよう近くで見守る。
食育		<ul style="list-style-type: none"> ・手づかみ食べを認め、自分で食べる意欲を育てる。 ・遊び食べも1つの過程とし、ゆったりと関わるようにする。
家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食の進め方や献立、味付け等の工夫の仕方を伝える。 ・行動範囲が広がるので、手の届く場所に危険な物を置かないことを知らせる。 ・はいはいを十分に経験することの大切さを伝える。 ・はいはい、つかまり立ち、立つ、歩く等、めざましい発達をする時期なので、小さな変化も保護者に伝え、成長の喜びを共感し合う。

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・離乳が完了し、幼児食を食べる。 ・保育者に手伝ってもらいながら、スプーンを持って食べる。 ・一定時間眠る。 ・伝い歩きから一人歩きをする。 ・つまむ、たたく、引っ張る等、手や指を使う。 ・欲しいものを指差しする。 ・保育者の言うことが分かるようになる。 ・片言を言う。 ・自分から人やものに関わろうとする。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○食事、睡眠等生活のリズムが安定する。 ○安全で活動しやすい環境の中で、自由に体を動かすことを楽しむ。 ○身の回りの様々なものを触って遊び、好奇心や関心をもつ。 ○保育者との信頼関係が深まる中で、自分の気持ちを安心して表す。
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外で十分に遊ぶ。 ・保育者に手伝ってもらいながら、スプーンを持って食べようとする。 ・保育者と一緒に手洗いをしようとする。 ・保育者の近くで安心して眠る。 ・シールを貼る等、つまんだり握ったりする。 ・保育者に気持ちを受け止めてもらい、親しみと安心感をもつ。 ・保育者の行動に関心をもち、生活や遊びの中で簡単な模倣をする。
	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・普段使用している場所や自分のものが分かる。 ・欲しいものを指差しや身振りで伝えようとする。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・名前を呼ばれると返事をする。 ・保育者と一緒に水、砂、紙等身近な素材に触れる。
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・近くにいる友達や保育者と一緒に、歌やリズムに合わせて体を動かすことを喜ぶ。 ・絵本を読んでもらうことを喜ぶ。
	言葉の獲得	
感性と表現		
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・じっくりと一人遊びができるよう、空間を工夫する。 ・いろいろな感触のもので遊べるよう、素材を用意する。 ・探索活動が十分にできるよう、安全に配慮する。 ・室内の玩具や用具を清潔に保つ。
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自分からしてみようという姿を大切にし、温かく見守る。 ・模倣する時期を意識し、動作をゆっくりと大きく分かりやすくする。 ・一人一人の子どもとの関わりを十分にもち、信頼関係を築く。 ・子どもが発する言葉に丁寧に応答し、やり取りを楽しめるようにする。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で食べようとする姿を見守りながら、食べやすい量をスプーンに乗せたり、様子を見て食べさせたりする。 ・「おいしいね」と笑顔で言葉をかけ、楽しく食事ができるようにする。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲にあるものへの興味、関心の広がりから「いたずら」と見える行動が増えるので、身の回りの安全には十分に気を配り、危険な行動をしたときには、「いけないよ」等と分かりやすく話すことが大切であると伝える。 ・子どもの発見や喜びに共感したり、思いを汲み取って言葉に代えたりすることが大切であると伝える。 	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・手を添えながらスプーンを使って食べる。 ・手伝ってもらいながら簡単な衣類を脱ぐ。 ・歩行が安定する。 ・積み木を並べたり積んだりする。 ・単語や2語文を話す。 ・友達や保育者のやっていることを真似て遊ぶ。 ・自己主張が強くなる。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○安心できる保育者のもと、簡単な身の回りのことをやろうとする。 ○探索活動を楽しみながら、いろいろなものに触れて興味関心を示す。 ○保育者とのやり取りを通して、言葉を使うことを楽しむ。 ○保育者や友達の真似をして遊ぶ。
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンを使って自分で食べようとする。 ・簡単な衣類を自分で脱ごうとする。 ・歩く、登る、下りる等、体を使って遊ぶ。 ・ページをめくったり紙を破いたりする。 ・クレヨン等で、なぐり描きをする。 ・友達や保育者のしていることを真似て遊ぶ。 ・保育者との関わりの中で、自分の気持ちを安心して表す。 ・玩具を出して遊んだり、保育者と一緒に片付けたりする。 ・保育者の言葉かけが分かり、行動しようとする。 ・保育者と一緒に簡単な挨拶をする。 ・絵本やお話を見たり聞いたりして、繰り返しのある言葉を楽しむ。 ・保育者と一緒に歌ったり、簡単な手遊びをしたりする。 ・歌や音楽に合わせて、体を動かして表現することを楽しむ。
	感性と表現	
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが思うままに動きたい気持ちを満たせるように、探索活動がたくさんできるような室内外の環境を整える。 ・いろいろな動きができるような遊具を用意する。 ・危険物を点検し、安全な環境を整える。
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士のトラブルが多くなるが、一人一人の気持ちを受け入れ、優しく語りかけて対応することにより、互いの存在に気付くようにする。 ・子どもの発見や驚きを受け止め、好奇心や興味を満たし、共有できるようにする。 ・子どもの言おうとしている言葉を察し、受け入れ、代弁していく。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒に手洗いをして、「きれいになったね」と声をかけ、清潔にする気持ちよさを知らせる。 ・食べようとする意欲を大切にしながら、そばについてスプーンやフォークの持ち方を知らせていく。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差の大きい時期なので、一人一人の発育、発達状況に合わせて対応していくことの大切さを伝える。 ・片言の話に応答したり会話したりすることが、言葉の獲得につながっていくことを伝える。 ・子どもの成長の表れとして、「いやだ、いやだ」と言うことが多くなることもあるが、子ども自身が選んで決められるように「どうしたいの?」「どっちがいいの?」と聞くことが大切であることを伝える。 	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・こぼしながらもスプーンを使って一人で食べる。 ・尿が出た時に知らせることがある。 ・簡単な衣類を自分で脱ぐ。 ・クレヨン等でなぐり描きをする。 ・つま先立ち、走る、よじ登る、跳ぶことができる。 ・ちぎったり、ねじったりする。 ・「これ、なあに？」等の質問をする。 ・一方的な要求には「いや」という。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○保育者に手伝ってもらいながら、身の回りのことを自分でしようとする。 ○体を十分に動かして遊ぶ。 ○自分の要求を言葉で伝えようとする。 ○身近な自然に触れ、興味関心をもつ。
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンを使って一人で食べようとする。 ・オムツが汚れていたら知らせようとしたり、濡れていない時は保育者と一緒にトイレに行き、便器に座ってみたりする。 ・簡単な衣類は、保育者に手伝ってもらいながら自分で着脱しようとする。 ・走ったり跳んだりしながら戸外で遊ぶ。 ・粘土をちぎったり丸めたりする等、手先を使う遊びを楽しむ。 ・見立て遊びやつもり遊びをする。 ・生活や遊びの中で色や形に興味をもつ。 ・身近な小動物や自然物に興味をもつ。 ・保育者や友達の名前を言おうとする。 ・自分の気持ちを言おうとする。 ・簡単な歌やリズム遊びを楽しむ。 ・生活や遊びの中で経験したことを再現する。
	心身の健康	
	人との関わり	
	身近な環境との関わり	
	言葉の獲得	
感性と表現		
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・走ったり跳んだりできる遊びや場所を用意する。 ・一人一人が好きな遊びを見つけられるように、いろいろな遊びの種類やコーナーを用意する。 ・見立て遊びに必要な用具を用意する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> 手指の機能の発達のために ・小麦粉粘土・のり・ひも通し </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> 見立て遊びのために ・ブロック・木製電車 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> 体を動かして遊ぶために ・追いかけっこ・巧技台 </div> </div>
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> ・着替えは取りかかりやすいよう途中まで手伝ったり、衣服を広げたりしておく。 ・衝動的な動きが多くなるので、子どもから目を離さないようにする。 ・自分の思いを通そうとしてトラブルになった時には、お互いの気持ちを受け止め、分かりやすい言葉で仲立ちをして、友だちとの関わり方を知らせていく。 ・子どもの話は優しく受け止め、自分から話したいという気持ちを大切に、楽しんで言葉を使うことができるようにする。 ・身の回りの自然に気付けるよう知らせたり、子どもの発見と一緒に喜んだりする。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と食前食後にしぐさや言葉で挨拶をする習慣を身に付けていく。 ・スプーンやフォークを使って、こぼしながらも自分で食べようとする姿を認めていく。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に運動遊びが出来るように、活動しやすい衣服や靴の用意をお願いする。 ・食事のマナーを伝え始める時期であることを知らせていく。 ・子どもは何でも自分でやりたがったり自己主張したりする一方で、まだ自己コントロールが難しいため、大人を困らせることが多くなる。しかし、そのような姿は発達の過程であり、子どもの成長として受け止められるよう伝える。 	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンを使ってほとんど一人で食べる。 ・トイレに行き排泄することが増える。 ・保育者に手伝ってもらいながら衣類を着脱する。 ・片足で立ったり、両足をそろえて跳んだりする。 ・積み木で形のあるものを作る。 ・「どうして？」等の質問をする。 ・何でも自分でやろうとするが、思い通りにならずイライラする。 ・見立て遊び、つもり遊びをする。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○保育者の声かけにより、身の回りのことを自分でしようとする。 ○全身や手指を使った遊びを楽しむ。 ○保育者や友達と簡単なやり取りや模倣遊びをする。
経験する内容	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・食器に手を添えて一人で食べようとする。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の声かけでトイレに行き、見守りの中で排泄しようとする。 ・簡単な衣類は自分で着脱する。
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・全身を使って遊ぶ。 ・見立て遊び、つもり遊び等を保育者と一緒に楽しむ。 ・生活や遊びの中で色や形に興味をもったり、物の大小に気付いたりする。
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ・簡単な繰り返しのある絵本を楽しむ。
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて体を動かし、自分なりの動きを楽しむ。
保育者の援助	【環境の構成】 <ul style="list-style-type: none"> ・見立て遊びが楽しくなるような用具を用意する。 ・体を使った遊びを十分に楽しめるように、危険物を点検し安全な環境を整える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> 手指の機能の発達のために ・のり・粘土・ボタンはめ </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> 見立て遊びのために ・ままごと道具・バッグ・積み木 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> 体を使った遊びのために ・ボール・追いかっこ </div> </div>	
	【保育者の関わり】 <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことは自分で行えるよう、時間を十分にとる。 ・周りの子どもとの触れ合いが多くなり、自我のぶつかり合いも見られるようになるため、相手の気持ちや関わり方を知らせていく。 ・つもり遊びの中に保育者も入り、子どもたちのイメージが合うようにしていき、子ども同士の関わりを上手くもてるように促していく。 	
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・「これなあに？」等の子どもの言葉に応答したり、「これおいしいよ」と保育者が食べる姿を見せたりして、いろいろな食べ物に興味をもてるようにしていく。 ・正しい姿勢で食事ができるよう、声をかけたり見守ったりしていく。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが何でもやりたがったり、自己主張が強くなったりして、保護者は子育てに悩む時期であるので、保護者の気持ちに共感し、寄り添った働きかけをする。 	

2歳児 発達の過程 I期 (4月 ~ 6月上旬)

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・スプーン、フォークを使って食事をしようとする。 ・着脱や排泄等、身の回りのことを、保育者に手伝ってもらいながら行う。 ・全身を使って遊ぶ。 ・クレヨンでぐるぐる描きをする。 ・思い通りにできないことがあるが、自分でやってみようとする。 ・保育者と一緒に、見立て遊びやつもり遊びをする。 ・新しい環境に不安になることもある。 		
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○保育者に不安や欲求を受け止めてもらい、安心して生活する。 ○保育者に見守られながら、自分のしたい遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを、保育者と一緒にしようとする。 		
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者のそばで安心して過ごす。 ・保育者を仲立ちとして、友達と一緒に食べることを喜ぶ。 ・声かけでトイレに行き、見守られながら排泄しようとする。 ・手伝ってもらいながら、衣服や靴を着脱しようとする。 ・保育者にそばについてもらいながら、安心して眠る。 ・園庭で体を動かして遊ぶ。(走る、登る、下りる) ・新しい場所や人に慣れ、好きな遊具や玩具を見つけて遊ぶ。 ・友達のしている遊びと同じことをしようとする。 ・保育者を仲立ちとして友達と関わって遊ぶ。 ・園庭で身近な草花、植物に興味をもち、見たり触れたりする。 ・生活の中での必要な言葉が分かり、簡単な挨拶や返事をする。 ・絵本を読んでもらったり、手遊びや歌を歌ったりして楽しむ。 ・土、砂、虫等、様々なものに興味をもって触れる。 		
	心身の健康			
	人との関わり			
	身近な環境との関わり			
	言葉の獲得			
	感性と表現			
保育者の援助	【環境構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・ロッカーや靴箱等の場所が分かるように個人マークをつける。 ・遊具の出し入れがしやすいように写真やイラストをつける。 ・好きな遊びを選べるように、いろいろな遊具やコーナーを用意する。 		
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 手指の機能を使った遊びのため ・小麦粉粘土・クレヨン ・のり・ボタンはめ ・ひも通し </td> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 見立て遊びのために ・ブロック・積木 ・人形・ままごと </td> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 体を使った遊びのために ・追いかっこ・三輪車 </td> </tr> </table>	手指の機能を使った遊びのため ・小麦粉粘土・クレヨン ・のり・ボタンはめ ・ひも通し	見立て遊びのために ・ブロック・積木 ・人形・ままごと	体を使った遊びのために ・追いかっこ・三輪車
手指の機能を使った遊びのため ・小麦粉粘土・クレヨン ・のり・ボタンはめ ・ひも通し	見立て遊びのために ・ブロック・積木 ・人形・ままごと	体を使った遊びのために ・追いかっこ・三輪車		
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> ・食事、排泄、午睡等を安心してできるように、保育者がゆとりをもち、ゆったりとした生活リズムと雰囲気心がける。 ・一人一人の甘え、不安、欲求を丁寧に受け止めて信頼関係を築き、安心して過ごせるようにする。 ・遊具の使い方を知らせ、安全に遊べるように配慮する。 ・否定的な言葉ではなく「できるかな」「～しようね」と自らやってみようという意欲がもてるような言葉かけをする。また、できた時にはできて当たり前と思わず、見逃さないようにほめてその子の自信につなげていく。 		
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンやフォークを使って食べられるよう一人一人に合わせた声かけをしていく。 ・保育者も一緒に食べる中で「〇〇おいしいね」等、会話をしながら楽しい雰囲気食べられるようにしていく。 			
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・登降園の際の声かけや連絡ノートでのやり取りの中で、子どもの姿を伝え合い、保護者の気持ちに寄り添い共感していく。 ・自我が芽生え何でもやりたがるが、上手くいかず失敗する時期だということを伝える。 ・やりたいという気持ちを大切に、失敗しても自分でやったという満足感を得られるような経験をさせることで意欲が育つことを伝える。 			

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンやフォークを使って食事をする。 ・尿意を知らせ、トイレで排泄しようとする。 ・登る、押す、引っ張る等、全身を使って遊ぶ。 ・トラックや家等、積み木で形あるものを作って遊ぶ。 ・自我が芽生え、自分の欲求や要求を言葉で伝えようとし、「どうして」等の質問をする。 ・保育者と一緒に見立て遊びやつもり遊びをする。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○やりたい気持ちを受け止めてもらいながら、簡単な身の回りのことをやろうとする。 ○保育者や友達と一緒に、戸外で十分に体を動かして遊んだり、水、砂、土に触れて解放的な遊びを楽しんだりする。 ○生活に必要な言葉が少しずつ分かり、したいことやしてほしいことを言葉で表現しようとする。
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> 心身の健康 人との関わり 身近な環境との関わり 言葉の獲得 感性と表現
		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の声かけでトイレに行き、見守られながら排泄する。 ・保育者に見守られながら、自分で衣服や靴の着脱をしようとする。 ・保育者や友達との関わりを深めながら、自分の気持ちを安心して表す。 ・保育者と一緒に模倣をしながら、見立て遊びやつもり遊びを楽しむ。 ・生活や遊びの中で順番等の決まりがあることを知る。 ・自分のしたいことやしてほしいことを言葉やしぐさで伝える。 ・絵本の中の簡単な言葉を繰り返して楽しむ。 ・保育者と一緒に水、砂、土に触れて遊ぶ。 ・クレヨンや絵の具等で思いのままに塗ったり描いたりする。 ・積み木を並べたり積んだりすることを楽しむ。 ・小麦粉粘土等を丸めたり伸ばしたりして楽しむ。
	保育者の援助	<p>【環境の構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見立て遊びが楽しくなるような物を用意する。 ・水、砂、土等に触れる環境を用意する。 ・水遊びでは必ず監視役をおき、転倒防止のため周りに滑りにくい物を敷く等して安全面に十分配慮する。 ・プライバシー保護の為、タープやパーテーションを利用する。 ・着替えや持ち物等、自分で出し入れしやすいように工夫する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>手指の機能を使った遊びのために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小麦粉粘土・のり・ボタンはめ ・ひも通し・クレヨン </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>見立て遊びのために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積み木・ままごと道具 ・人形 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>体を動かす遊びのために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巧技台・スクーター ・三輪車 </div> </div> <p>【保育者の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことを自分でやろうとする気持ちを大切に、ゆとりをもって見守ったり、励ましたりしながら意欲につなげていく。 ・一人一人の健康状態を把握し、水分補給や休息に配慮していく。 ・友達とのトラブルの場面では、一人一人の思いを受け止めながら、相手の気持ちに気付けるように伝えていく。 ・やっていいことといけないうことを言葉で繰り返し伝えていく。
	食育	<ul style="list-style-type: none"> ・食器に手を添えて食べられるように声をかけていく。 ・保育室で給食員と交流する機会をもつ。(例えばスイカを切ってもらったり、おにぎりを目の前で作ってもらったりする等) ・食材を見たり触れたりして興味をもつ。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・何でも自分でやりたがり、自己主張をして感情のコントロールができないことがあるが、発達の過程に見られる姿であることを伝える。 ・子どもの気持ちを受け止めるために、抱きしめたりスキンシップ(絵本の読み聞かせや親子の会話等)をとったりすることで子どもが愛情を感じ、情緒が安定することを伝える。 ・衣類等は、子どもが自分で出し入れしやすいように整理しておく必要性を知らせる。 	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンやフォークを使ってほとんど一人で食べる。 ・走ったり、跳んだりして遊ぶ。 ・上手くできなくても、身の回りのことを自分でする。 ・自己主張が強くなり、友達とぶつかり合う。 ・保育者や友達と一緒に見立て遊びやつもり遊びをする。 		
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○保育者に見守られながら、身の回りのことを少しずつ自分でやろうとする。 ○生活や遊びの中で、保育者や友達と関わり、簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ○全身を使った活動的な遊びを楽しむ。 		
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・うがいの仕方を知る。 ・鼻水を自分で拭いたり、かもうとしたりする。 		
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外遊びを十分にすることで、全身を動かして遊びを楽しむ。 ・巧技台等で段差のある遊びを楽しむ。(腕力、背筋、腹筋、脚力) ・保育者が仲立ちとなり、友達と見立て遊びやつもり遊びを楽しむ。 		
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との玩具の取り合いでトラブルになった時等、保育者を仲立ちとして相手も同じ思いをしていることを知る。 		
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・「かして」「いれて」等の自分の思いを少しずつ言葉にして、保育者や友達に伝えようとする。 		
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な物語の絵本や紙芝居を繰り返し読んでもらったり、好きな歌を歌ったりすることを楽しむ。 ・リズムに合わせて身体を動かすことを楽しむ。 		
保育者の援助	<p>【環境の構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動きが活発になるので安全に配慮しながら、子どもたちがやりたいことを伸び伸びできるような環境を整えていく。 ・見立て遊びやつもり遊びが楽しくなるように、布、紙、お手玉、容器、キャップ、自然物(どんぐり、まつぼっくり)等を用意しておく。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;"> 手指の機能を使った遊びのために ・粘土・のり・はさみ ・パズル </td> <td style="padding: 5px;"> 見立て遊びのために ・積み木・ブロック・布・紙 ・お手玉・容器・キャップ </td> <td style="padding: 5px;"> 体を動かす遊びのために ・ボール・三輪車・巧技台 ・マット </td> </tr> </table> <p>【保育者の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに成長する時期なので、生活や遊びをともにやってみようとする気持ちをもてるように言葉のかけ方を工夫し、遊びの内容を充実させていく。 ・できたことをほめたり認めたりすることで自信へとつなげていく。 ・トラブルの際は、互いの気持ちを十分に受け止めたうえで、相手の気持ちを代弁して伝え、友達との関わり方を知らせていく。 	手指の機能を使った遊びのために ・粘土・のり・はさみ ・パズル	見立て遊びのために ・積み木・ブロック・布・紙 ・お手玉・容器・キャップ	体を動かす遊びのために ・ボール・三輪車・巧技台 ・マット
手指の機能を使った遊びのために ・粘土・のり・はさみ ・パズル	見立て遊びのために ・積み木・ブロック・布・紙 ・お手玉・容器・キャップ	体を動かす遊びのために ・ボール・三輪車・巧技台 ・マット		
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が手を添えたり、やってみせたりして正しい食具の持ち方を知らせていく。 ・食後のブクブクうがいは、実際に保育者がやってみせたり、やり方を知らせたりしていく。 			
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とのトラブルの際は、状況を詳しく伝える。 ・手洗いやうがい等、清潔について、習慣づけることの大切さを伝える。 ・散歩や園庭遊び等戸外での活動が多くなってくるので、動きやすい衣服や足に合った靴を用意してもらう。 			

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・食器を持ってスプーンやフォークを使って食べる。 ・着脱や身の回りのことが、ほぼ自分でできる。 ・ズボン、パンツを下げて排泄する。 ・体が自由に動かせるようになり、全身を使って遊ぶ。 ・手すりにつかまりながら、スムーズに階段の上り下りをする。 ・丸を描く。(円が閉じる) ・少しずつ形のある絵を描く。 ・友達との関わりが多くなり、トラブルになることもある。 ・少人数で見立て遊びをする。 ・したいことやしてほしいことを身近な相手に簡単な言葉で伝える。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○保育者に見守られながら、身の周りのことを自分でやろうとする。 ○手先や全身を使って、いろいろな遊びを楽しむ。 ○生活や遊びの中で、言葉のやり取りを楽しむ。 ○興味のあることや経験したことを思い浮かべながら、自分なりに表現したり、見立て遊びやつもり遊びをしたりすることを楽しむ。 ○進級することに期待をもつ。
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・片手で食器を持って食具を使い、最後まで一人で食べようとする。 ・手洗い、うがいをする。(ブクブクうがい・ガラガラうがい) ・尿意、便意を知らせ、自分からトイレに行って排泄しようとする。 ・ズボン、パンツを下げて排泄する。 ・功技台を使って全身運動をする。 ・友達と同じ遊びをして楽しむ。 ・友達との関わりを通して、自分の思いを簡単な言葉で相手に伝えようとしていたり、我慢したり待ったりしようとする。 ・形、大小、色等に関心をもつ。 ・生活に必要な簡単な言葉が分かり、使おうとする。 ・物語の登場人物や動物等、好きなものになりきり、保育者や友達と一緒に遊んだり、動いたりする楽しさに気付く。 ・粘土、絵の具、折り紙、のり、はさみ等の材料や用具を使い、作ることを楽しむ。
	心身の健康	
	人との関わり	
	身近な環境との関わり	
保育者の援助		<p>【環境の構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近に経験したことを真似て、遊びを楽しめるような道具を用意する。 ・異年齢(3歳以上児)と交流したり、次年度使用するクラスで遊んだりして、進級することに安心と期待をもてるようにする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">手指の機能を使った遊びのために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘土・はさみ・ボタンはめ ・ひも通し・絵カード探し ・ジグソーパズル・シール貼り </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">見立て遊びのために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ままごと・人形 ・積み木・ブロック ・チェーリング </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">体を使った遊びのために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三輪車・かくれんぼ ・しっぽ取り・巧技台 ・フルーツバスケット等 </div> </div> <p>【保育者の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自分でできた喜びを味わい、満足感や自信をもてるように、一人一人に合わせたきめ細やかな配慮をしていく。 ・トラブルの場面では、相手の気持ちや友達とのかかわり方を分かりやすく丁寧に話していく。 ・寒くても食事前の手洗いやうがいを進んでしようとする姿を認めたり励ましたりして、習慣が崩れないようにする。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものペースで食べ進められるように見守りながら、苦手な食べ物も食べてみようと思えるように声かけをする。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・着脱等身の回りのことが自分でできるようになるので、脱ぎ着しやすいものを準備してもらおう。 ・おたよりや懇談会を通して、これまでの子どもの成長を喜び合ったり、次年度の見通しについて話したりして、安心して進級できるようにする。 	

3歳児 発達の過程 I期 (4月 ~ 6月上旬)

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・進級や入園に伴う環境の変化により、不安や戸惑いを感じる子どもがいる。 ・好きな遊具や場を見つけ、自分のペースや思いで動く。 ・保育者や友達に興味関心を示す。 ・困ったことや嫌なこと等を言葉で伝えることが難しい。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○自分の好きな遊びや場を見つけ、遊ぼうとする。 ○保育者や友達と触れ合い、共に遊ぶ中で親しみをもつ。 ○新しい環境に慣れ、安心して過ごす。
経験する内容	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に慣れ、基本的な生活の仕方を知る。(食事、排泄、手洗い、身支度の仕方等) ・保育者や友達と一緒に食事をする。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・園の約束事、遊具や用具の使い方等を知る。 ・保育者や友達と、話したり触れ合ったりして遊ぶ。 ・自分のクラスや担任、友達の顔や名前を知る。
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な小動物や草花を見たり触れたりして、親しみをもつ。 ・ままごと、電車、積み木、ブロック等に興味をもち遊ぶ。 ・挨拶や返事等、生活に必要な言葉を知る。
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本や紙芝居を読んでもらうことを楽しむ。 ・保育者と一緒に歌を歌ったり、手遊びをしたり、音楽に合わせて体を動かしたりすることを楽しむ。
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・砂、粘土等の素材に触れて、感触を楽しみながら遊ぶ。
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活する場所や物が分かるように、個別のマークを付け、安心して生活ができるようにする。 ・遊具を置く場所は、出し入れや片付けをしやすいようにしたり、分かりやすく表示をつけたりする。 ・興味をもった遊びを一人一人が十分にできるように、遊具の数や置き方に配慮する。
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差に配慮しながら一人一人の気持ちをしっかりと受け止め、声をかけながらスキンシップを図り、安心して園生活を送れるように子どもとの信頼関係を築く。 ・保育者も一緒に遊び、楽しさに共感する。 ・いろいろな遊具や場を知らせたり、遊びに誘いかけたりして、やりたいことを見つけられるようにする。 ・絵本や紙芝居、リズム、手遊び、ペープサートや指人形等の教材を準備し、保育者のそばに集まると楽しいことがあるという体験を積み重ねていく。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や保育者と一緒に食事をする喜びや楽しさを味わえるようにする。 ・昼食時の活動や流れを分かりやすく伝える。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・様子を聞いて家庭の生活を理解したり、園での様子を伝えたりして、コミュニケーションを図り、信頼関係を築く。 ・身の回りのことや身支度の仕方等を知らせ、自分でしようとする力につながるように、見守ることの大切さを懇談会やクラスだより等で伝える。 	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊びを見つける。 ・自分の好きな遊びの場にいる友達と関わろうとする。 ・自分の思い通りにしたが、物の取り合い等のトラブルが出てくる。 ・園生活の流れが少しずつ分かってくる。 ・身の回りのことを、保育者の声かけや援助により自分でしようとする子どもや、気分によって取り組むのが難しかったり甘えたりする子どもがいる。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○自分の好きな遊びを見つけて楽しむ。 ○保育者や身近にいる友達と同じ場や物で遊んだり、同じように動いたりすることを楽しむ。 ○保育者と一緒に、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。
経験する内容	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・走ったり遊具を使ったりして、体を動かして遊ぶ。 ・好きな食べ物を喜んで食べる。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・食事や排泄、手洗い、身支度等を、保育者の声かけや援助により自分でしようとする。 ・保育者や自分の近くで遊んでいる友達に興味や関心をもつ。 ・友達がしていることを見たり、真似したりして遊ぶ。
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の物や、他の人の物、みんなで使う物の違いが分かり、大切にすることを覚える。 ・身近な小動物や草花、野菜等を見たり触れたりして、興味や関心をもつ。
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・「貸して」「入れて」「ありがとう」「順番ね」等、遊びに必要な言葉を知る。 ・困ったことやしてほしいことを、自分なりの言葉やしぐさ、表情等で、保育者に表現する。
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・砂、泥、水、シャボン玉等で遊び、感触を楽しんだり解放感を味わったりする。 ・曲の感じやリズムに合わせて、体を動かしたり、簡単な身体表現等を楽しんだりする。
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着替えや身の回りの片付けについて、手順や場が分かりやすいように、表示をしたり入れ物を用意したりして、環境を整える。 ・水の心地よさやいろいろな素材の感触を味わえるよう、環境を工夫する。 ・水を使った活動の際には、安全面や衛生面に十分配慮するとともに、個人差に応じて無理なく水に親しめるような環境をつくる。 ・自分なりの遊びを楽しみながらも、友達が遊んでいる様子が分かるような空間や場づくりをする。
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の発達を丁寧に捉え、必要に応じて手助けしたり励ましたりし、自分でしようとする気持ちを育てる。 ・遊びへの興味をもてるように、保育者も一緒に遊びを楽しみながら、友達の様子を見せたり誘いかけたりする。 ・子どもの思いや感情を受け止め共感し、自分らしさを発揮できるようにする。 ・こまめな水分補給や休息をとれるようにし、一人一人の体調に留意する。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で食べることに、楽しみや自信を感じられるような言葉かけをする。 ・プランターの置き場を工夫する等して、身近な植物や野菜の育ちに目を向け、収穫を楽しめるようにする。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活の中で、身の回りのことを自分でしている姿を個人面談やクラスだより等で知らせ、子どもの成長を喜び合うとともに、家庭でも丁寧に取り組んでもらえるように伝える。 ・食事、睡眠、休息等の生活リズムの安定を図れるように知らせる。 ・友達とのトラブルが発生した時は、人との関わりを学ぶための大切な体験であることを伝える。 	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな遊びを繰り返す。 ・一緒に遊びたい友達ができ、自分から関わっていく。 ・4、5歳児の遊びをじっと見たり真似したりする。 ・身の回りのことを自分でしようとする。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○保育者や友達がすることに興味をもち、自分もしてみようとする。 ○気の合う友達と関わって遊ぶことを楽しむ。 ○園での過ごし方が分かり、身の回りのことを自分でしようとする。
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	
	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱等、身の回りのことを自分でしようとする。 ・かけっこやいろいろな用具を使った遊びを楽しみ、思いきり体を動かして遊ぶ。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や生活の中で、異年齢児との関わりをもつ。 ・気の合う友達や関心を寄せる友達と一緒に、触れ合って遊ぶ。
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の変化を感じながら、落ち葉や木の実等を集め、触れて遊ぶ中で、身近な自然に興味や関心をもつ。 ・保育者と一緒に、身近な動植物の世話をしたり遊んだりする中で、興味を広げる。
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちやして欲しいこと等を、保育者に自分なりの動きや言葉で伝えようとする。 ・絵本や紙芝居等、みんなで見たり聞いたりすることを楽しむ。 ・保育者や友達と、音楽に合わせて体を動かしたり、いろいろな動きを真似したりして、表現する。
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にあるものを使い、好きなように描いたり作ったりして表現する楽しさを感じる。
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等を通して4、5歳児の活動を見たり真似をしたりするので、真似をして遊べることを繰り返し楽しめるように、遊具や用具を身近に用意する。 ・身近な自然事象に興味をもてるように、園外に出かけたり動植物に触れたりする機会をもつ。 ・友達と同じようなことをして、一緒にいることを楽しめるように、身近な用具や材料、場を用意する。
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのこと等を自分からしようとする姿を見守ったり、できるようになった姿を認めたりして励ます。 ・保育者が子どもと一緒に体を動かして遊ぶ姿を見せながら、その楽しさを伝える。 ・トラブルや思い通りにならない時は、個々の思いを受け止める。また互いの思いを代弁して伝えたり、気分を切り替えたりできるようにする。
食育		<ul style="list-style-type: none"> ・食事が終わるまで席を立たない等、簡単なマナーを知らせながら、一緒に食事をする。
家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・運動会等の取り組みは個人差があることを伝え、その子なりの成長を感じてもらえるようにする。 ・自分の思いが叶わないことに、泣いたり怒ったりすることが増えてくるが、成長の過程と捉え、見守ったり気持ちを受け止めたりすることの大切さを伝える。

3歳児 発達の過程 IV期 (10月下旬 ~ 12月)

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・気の合う友達と一緒に、同じ遊びを楽しめるようになる。 ・簡単なルールのある遊びを楽しむようになる。 ・おしゃべりが活発になる。 ・生活の中でのきまりが分かるようになる。(交替で使う、順番に並ぶ等)
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな活動に興味をもち、楽しむ。 ○みんなと一緒に遊ぶ楽しさを感じる。 ○生活や遊びの中にきまりがあることが分かり、守ろうとする。
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	
	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことに自分から取り組み、できた喜びを感じる。 ・保育者や友達と、簡単なルールのある遊びをする。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と同じ活動に参加し、みんなと一緒にすることを喜ぶ。 ・友達との関わりの中で、楽しく遊ぶためにきまりやルールがあることを知る。
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の話をみんなと一緒に聞こうとする。 ・身近な物の大小、色、形、多い少ない等の違いに気付く。 ・いろいろな材料や用具を使って、遊びに必要なものを作る。
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや生活の中で、必要な言葉を使おうとする。 ・保育者や友達と、言葉のやりとりをすることを喜ぶ。
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなリズム楽器に触れたり、鳴らしたりすることに楽しさを感じる。 ・見立てたり何かのつもりになったりして、自分なりに表現して遊ぶ。
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・見立てたり、なりきったりして遊ぶことができるような材料や用具を用意し、自分なりに作ったり使ったりできるようにする。 ・友達と一緒に遊ぶを十分に楽しめるような材料や用具、遊びの場を用意する。 ・日頃使い慣れている遊具を使いやすいように置いたり、場を広げて遊べるような物を用意したりする。 ・季節の変化に応じ、室内の温度や湿度、換気に配慮する。
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> ・最後までやり遂げようとする気持ちが芽生えているので、保育者は見守り、子どもの気持ちを受け止める。様子によっては手助けをし「できた」という満足感を味わえるようにする。 ・遊びや場に応じた簡単な言葉を知らせ、言葉で伝える喜びを感じられるようにする。 ・トラブルが起きた時は、それぞれの思いを受け止め、相手の気持ちにも気付けるように仲立ちをする。(分かりやすく代弁して伝えたり、気分転換を図ったりする) ・生活や遊びの中に、きまりがあることを繰り返し伝える。 ・子どもの興味や集中時間を考慮し、分かりやすく話をする。 ・手洗いやうがいは保育者も一緒に行い、大切さを知らせる。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れない食べ物や苦手な食べ物も、食べてみようという気持ちを促す。 ・芋掘りや焼き芋等の活動を通して、秋の食材に触れたり味わったりすることができるようにする。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・寒さに向けての健康管理の方法と必要性を知らせる。 ・好きな物を食べるだけでなく、いろいろな食材を食べることの大切さを知らせる。 ・保育参加等を通して、子どもの成長や具体的な姿を共有したり、親子の触れ合いの楽しさを感じ取ったりしてもらう。 	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊ぶ楽しさが分かってくる。 ・自分の思いを、言葉や動きで表現することが多くなる。 ・一日のおおまかな生活の流れが分かり、自分で行動しようとする。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○遊びの中で作ったり動いたりして、自分なりに表現することを楽しむ。 ○友達と遊んだり話したりすることを楽しみ、一緒に活動しようとする。 ○基本的な生活習慣が身に付き、自分のことは自分でしようとする。
経験する内容	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・防寒着の着脱、手洗いやうがい等、身の回りのことを自分でしようとする。 ・保育者や友達と集団遊びを楽しみ、体を動かして遊ぶ。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスみんなで、同じ遊びを楽しむ。 ・保育者や友達との関わりの中で、会話を楽しみながら一緒に遊ぶ。 ・友達が困ったり泣いたりしている時に、心配し助けようという気持ちを持ち、友道をなぐさめたり保育者に知らせたりする。
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の自然に興味を持ち、見たり触れたりして感じる。 ・身近な材料を使って自分が欲しい物を作ったり、できた物を遊びに使ったりする。
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを、自分なりに言葉に表して伝える。 ・絵本や紙芝居等を見たり聞いたりしながら、言葉への興味を広げていく。
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ごっこ遊びや簡単な劇遊びで、好きな登場人物になりきって遊ぶ。 ・音楽に合わせてリズム楽器を鳴らしたり、身体表現を楽しんだりする。
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びが発展できるような材料や、遊びたい友達と一緒にいられる場等を用意し、友達や保育者と十分に触れ合って遊べるようにする。 ・簡単なルールや繰り返しのある遊びを友達と一緒に楽しめるよう、遊具や用具を用意する。 ・身近な自然事象に興味をもって関われるよう、環境を工夫する。
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことは自分でする姿に共感し、認めたり褒めたりすることで自信をもたせ、大きくなった喜びを感じ取れるようにする。 ・友達と一緒に遊ぶ姿を見守ったり楽しさに共感したりし、さらにつながりを感じられるようにする。 ・一人一人の動きを受け止めながら、保育者もアイデアやヒントを出し、より遊びが楽しくなるようにする。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で準備や片付けをする姿を認め、自信につなげていく。 ・異年齢の友達や担任以外の保育者と食事をする機会を設け、周りの人に親しみを感じながら会食する楽しさを味わえるようにする。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・自己主張や自立心が強くなるが、まだ甘えたい気持ちもあるので、温かく受け止めるように伝える。 ・懇談会や個人面談等で話し合う中で、進級に向けて子どもの成長を振り返ったり、喜んだりする機会を設ける。 	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に期待を抱いている子どもや、不安な気持ちをもっている子どもがいる。 ・保育者の仲立ちにより、自分のやりたい遊びを見つけ遊ぼうとする。 ・新しい環境での園生活の流れや過ごし方が分かり、保育者の言葉かけにより、身の回りのことをしようとする。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○保育者に親しみをもったり、園が楽しいところであると感じたりする。 ○好きな遊びを通して、友達や保育者と触れ合うことを楽しむ。 ○園生活の流れが分かり、安心して過ごす。
経験する内容	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の場でのきまりがあることを知る。 ・保育者や友達と一緒に楽しく食事をする。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外で体を動かして遊ぶ気持ちよさを感じる。 ・保育者や友達との触れ合いを楽しむ。
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達に親しみをもち、好きな遊びをする。 ・困っていることや、してほしいこと等を保育者に伝えようとする。
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・春の花や虫に触れ、いろいろな自然に親しむ。 ・挨拶や返事等、生活に必要な言葉を使おうとする。
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本や紙芝居等を、見たり聞いたりすることを楽しむ。 ・保育者と一緒に歌を歌ったり、曲に合わせて体を動かしたりする。 ・身近な素材や用具を使って、描いたり作ったりすることを楽しむ。
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊びが十分にできる時間や場所を保障する。 ・遊具は子どもが欲求を満たせる程度の量や種類を準備する。また、片付けやすいよう場所を工夫する。 ・生活をスムーズに送れるよう、保育室を整えるときにも表示をつける等して、遊具や用具を置く場所を分かりやすくする。 ・園庭での場の構成は、遊びの特徴や安全面に考慮して行う。
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> ・園全体の職員が、様々な場面で子どもを援助できるよう連携を図る。 ・個人差を考慮して子ども一人一人に呼びかけたり、触れ合いを多くしたりして情緒の安定を図る。 ・保育者が積極的に遊びに加わり、遊びの楽しさを味わえるようにする。 ・同じ場にいる友達の存在に気付くような言葉かけをする。 ・遊具や用具の使い方を知らせ、一人一人を見守りながら、安全な使い方を伝える。 ・個人差を考慮し、生活の流れが分かるように言葉をかけたり、必要に応じて手助けをしたりする。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・園での食事の仕方や流れを理解し、保育者や友達と一緒に食事をする楽しさを感じられるようにする。 ・季節に応じた植物や、保育に活用できるような植物を選び、育てる。 ・植物の観察や水やり等を子どもと一緒にしながら、生長の喜びを感じられるようにする。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・面談や懇談会、おたより等で園の方針やクラス運営の方針について伝え、園と家庭とが同じ思いで、子どもに関われるようにする。 ・園や家庭での子どもの様子を連絡帳や送迎時に伝え合い、保護者の不安な気持ちを受け止めながら、信頼関係を築いていく。 	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな活動への興味が広がり、体を十分に動かすようになる。 ・周りの友達の動きに目が向くようになり、相手と同じことをして関わる。 ・友達とのトラブルが見られ、自分の思いにも気付いてほしいという働きかけが増える。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな活動に興味をもち、自分のやりたい遊びを見つけて楽しむ。 ○友達と関わりをもち、一緒に活動することを楽しむ。 ○自分でできることに喜びを感じながら、生活に必要な習慣を身に付ける。
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康 <ul style="list-style-type: none"> ・戸外で体を十分に動かして遊ぶことを楽しむ。 ・安全な遊具や用具の扱い方等、園での生活の仕方が分かり進んで行く。 ・人との関わり <ul style="list-style-type: none"> ・興味をもった遊びをする中で、友達とのつながりを感じる。 ・友達と同じ物を持ったり、同じ動きをしたりし、イメージを共有してごっこ遊びを楽しむ。 ・身近な環境との関わり <ul style="list-style-type: none"> ・身近な動植物や自然事象に興味や関心をもつ。 ・砂や泥等の感触を味わう。 ・言葉の獲得 <ul style="list-style-type: none"> ・色水遊びやシャボン玉遊び等で、試したり発見したりし、できたことを喜ぶ。 ・自分の思ったことを言葉や動きで表現し、相手に伝えようとする。 ・感性と表現 <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や返事等、生活に必要な言葉を使う。 ・水遊びを通し、水の冷たさや気持ちよさを味わう。 ・友達と一緒に歌ったり、音楽を聞きながら体を動かしたりして楽しむ。 ・身近な素材や用具を使って自由にかいたりつくったりすることを楽しむ。
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの作りたい物が実現できるよう、材料や用具を用意する。素材は子どもが扱いやすい大きさや種類を用意し、自由に使えるようコーナー等に分類しておく。 ・解放感を味わう水遊びや砂遊びは、進んで遊びに取り組むことができるように、子どもが興味をもてる素材や用具を十分に用意する。 ・気の合う友達との遊びを楽しめるように、遊具や場を用意する。 ・身の回りのことに進んで取り組めるように、子どもと一緒にいたり、分かりやすく表示をしたりする。 ・梅雨時や水遊びの時期の衛生管理及び安全面に、十分留意する。
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士の間関係性を把握し、友達との関わりや触れ合いを楽しめるようにする。 ・作ることの楽しさや作ったもので遊ぶ楽しさを味わえるよう、保育者が子どもと一緒に遊び、楽しさに共感していく。 ・遊びの中でいろいろなことに気付く、感じる、試す等している姿を受け止め、認めたり共感したりして、満足感を味わえるようにする。 ・水遊びは個人差を把握し、一人一人が無理なく水に親しめるようにしていく。また、着替えは慣れるまで不安な子どもがいる際には、温かく励まし安心して取り組めるよう援助する。 ・友達の遊びの様子や、楽しんでいること等を周りの子どもに伝え、触れ合えるようにする。 ・暑い日は日陰で遊んだり、水分補給をしたりと、子どもの体調に十分配慮する。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の栽培や水やりを通して、生長の様子や変化を楽しみながら、気付いたこと等を伝え合える場面を設ける。 ・枝豆やとうもろこしの皮むきを通して食材に興味をもてるようにする。 ・自分たちで育てた野菜の収穫を喜び、味わえるようにする。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談では、4月からの成長を知らせて保護者に安心してもらい、家庭と共に成長を見守っていけるようにする。 ・運動会等についての事前説明を行い、目的や取り組み方を明確にして保護者に理解や協力をお願いするとともに、子どもたちの成長を喜び合えるようにする。 	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりのイメージをもち、遊びの場をつくったり、見立てたりして遊ぶ。 ・友達とのつながりを感じ、同じものを作ったり、遊びの中で同じような動きをしたりする。 ・クラス全体で集まった時に、保育者の話を聞こうとする姿が見られるようになってくる。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○友達と触れ合いながら、感じたことを自分なりに表現して楽しむ。 ○気の合う友達の中で、自分の思いを出しながら遊ぶ。 ○保育者や友達の話の聞いたり、会話を楽しんだりする。
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・気温や活動に応じて、衣類の調節を自分でする。 ・運動的な遊びを自分からやってみようとする。 ・簡単なルールのある遊びを友達と一緒に楽しむ。 ・みんなで行う活動に喜んで参加し、自分なりの力を出す。 ・友達の態度や表情から、相手の思いに気付く。 ・夏から秋への自然の移り変わりに気付く。 ・草花を遊びに取り入れたり、虫探しや観察をしたりし、身近な動植物に親しみをもって関わる。 ・思ったことや考えたことを保育者や気の合う友達と伝え合う。 ・様々な素材や用具を使って遊びに必要なものを作る。 ・いろいろな遊びや活動を経験する中で、イメージを豊かにする。 ・音楽に合わせて歌ったり踊ったりし、体を動かすことを楽しむ。
	心身の健康	
	人との関わり	
	身近な環境との関わり	
	言葉の獲得	
	感性と表現	
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びが充実し楽しめるよう、子どもたちの興味に合わせた玩具、用具、素材を十分に用意する。 ・友達との関わりが広がるよう、自分たちで遊びの場を作れるようにしたり、遊びに関わる人数によって場を広げたりする。 ・活動に必要な遊具や用具を準備、点検しておく。
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外で思い切り体を動かして遊べるよう保育者も遊びに加わり、楽しい雰囲気づくりをしたり、意欲を高めたりする。 ・トラブルを見守り、子ども同士で解決できない時は保育者が入ったり、代弁し必要な言葉を伝えたりする。 ・自分の思い通りにならない気持ちを受け止めながら、相手の思いにも気付くようにする。 ・自分の話や思ったことを聞いてもらう喜びを感じることができるよう、相槌を打ったり言葉を補ったりするとともに、相手の話を聞くことの大切さを伝えていく。 ・気温や活動に応じて衣服の調節が必要なことに気付くよう、言葉をかけ知らせていく。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・食事をしっかり摂ることや清潔にすることが、健康にとって大切であることを伝える。 ・箸の持ち方や使い方の見本を見せたり、絵や写真を貼ったりして、分かりやすく知らせる。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会に向けて取り組む様子を伝え、子どもの成長している姿を共に喜び合う。 ・園で自然物を取り入れて遊ぶ様子を伝え、親子で秋の自然に興味や関心をもてるようにする。 	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・気の合う友達の中で思いを出し合いながら、遊びを持続させるようになる。 ・友達への関心が高まり、相手を理解しようとする気持ちが芽生え始める。 ・危険な場所や遊び方に気付き、安全な行動を意識できるようになってくる。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○自分なりの目的やイメージをもち、自分の力を発揮する。 ○友達と遊ぶ中で、自分の思いを表現したり、相手の言葉や動きを意識したりして遊ぶ。 ○場に応じた行動の仕方を知り、きまりを守ろうとする。
経験する内容	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・衣類の調節、手洗いやうがいの大切さを知り、自分でする。 ・落ち着いた雰囲気の中で、食事のマナーを意識しながら楽しく食事をする。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで体を動かす遊びに参加する。 ・友達と一緒に遊ぶ中で、ルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と自分の思いや考えを伝え合い、共通の目的をもって遊びに取り組む。 ・身近な自然の変化に気付き、秋の自然物を使って遊ぶ。
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・年末の行事や生活に関心をもつ。 ・保育者や友達と会話を楽しみ、思ったこと、感じたこと、経験したこと等を話したり、聞いたりする。
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本や物語等に親しむ中で、その面白さが分かりイメージを広げる。 ・様々な素材を使って、作ったり飾ったりすることを楽しむ。
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちのやりたい思いを汲み取り、実現できるように必要なものを準備する。 ・みんなの前や、いろいろな友達と話す機会をもてるようにする。 ・戸外遊びでは、体が温まるような遊びを取り入れる。 ・ルールの分かりやすい遊びを用意し、必要に応じてルールを確認し合う場を設ける。
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の思いや考えに共感し、思いが伝わり合う嬉しさを感じたり、やり遂げた満足感を味わったりできるようにする。 ・子どもが自分の思いを伝えたり、相手の気持ちに気付いたりできるように、一人一人の思いを受け止める。 ・自分たちの生活に必要な行動やきまりがあることに気付き、意識して行動できるよう、知らせたり一緒に考えたりする。 ・風邪の予防を進んで行う気持ちが育つよう、手洗いやうがいの大切さを知らせる。 ・秋の自然に興味をもったり、遊びの中に取り入れられたりできるような材料や場の設定をする。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養や健康の話、紙芝居等を通し、興味や「食べてみよう」という意欲をもてるようにする。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・日常における、子どもの取り組みや友達との関わりの中で成長した姿を伝え、保護者と共に喜び合い、保護者の子育ての自信につながるようにする。 	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに目的意識をもち、自己発揮して遊べるようになる。 ・友達と思いを出し合いながら遊ぶことを楽しむようになる。 ・自分なりに生活の見通しをもち、身の回りのことができるようになる。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○自分なりの目的や目標に向かって考えたり、試したりしながら遊ぶ。 ○自分の気持ちに折り合いをつけながら、クラスで活動することを楽しむ。 ○もうすぐ年長組になる期待をもち、自分のことは自分でやろうとする。
経験する内容	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な習慣が身に付き、自分から進んで身の回りのことをする。 ・寒さに負けず、思い切り体を動かして遊ぶ。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と共通の目的をもち、互いに動きや言葉を受け止め合って遊ぶ楽しさを知る。 ・友達と気持ちを受け止め合って遊ぶ。 ・いろいろなごっこ遊びの中で、必要なものを友達と一緒に考えたり工夫したりして作り、遊びに生かす。
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の身近な自然(霜柱、氷、雪)に興味をもち、見たり触れたりする。 ・生活の中で、必要に応じて数を数えたり、量の多少を比べたりする。 ・遊びの中で絵本やカルタ等を楽しむ。
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達の話に親しみをもって聞き、自分の思っていることを話す。 ・自分の成長を喜び、年長組になることに期待する気持ちをもつ。
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・花壇の様子や日差し、風の暖かさ等、小さな自然の変化に気づき、春の訪れを感じ取る。 ・年長組からいろいろな当番活動を引き継ぎ、年長組になることに期待をもちながら喜んで取り組む。
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・その子なりの目的意識をもてるような活動をクラス全体で取り入れ、その中で友達の姿も意識していくことができるようにする。 ・遊びの中で自然な形で文字や数量に親しめるよう、場を設定したり教材を準備したりする。 ・保育者や友達の話落ち着いた聞きやすい雰囲気づくりをしていく。
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> ・考えたり、試したりしている姿を大切に、それぞれの状況に応じて援助し、満足感をもてるようにする。 ・トラブルが起きたときは、保育者も子どもと一緒に考え、互いの思いを出し合えるようにする。 ・冬の身近な自然に触れながら、発見や疑問等に共感する。 ・年長児にしてもらったことや教えてもらったこと、一緒に遊んだこと等を話し合い、修了・卒園を祝う気持ちや感謝の気持ちをもてるようにする。 ・当番活動を年長児から教わりながら、自分たちの役割として喜んで取り組めるようにする。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や姿勢等の食事に必要なマナーの大切さが分かり、自ら進んで取り組めるようになる。 ・クッキングや会食等、食を通して感動することを体験し、食べる楽しさや感謝の気持ちをもてるようにしていく。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の子どもの成長について保護者に伝え、保護者も子育てが楽しいと感じられるようにする。また、次年度も園に通うことを親子共々楽しみにできるようにする。 	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・進級した喜びや期待をもちながら、新しい環境に自分から関わり、いろいろな遊びに取り組む。 ・異年齢の子どもに対して優しさや思いやりをもち、手助けしようという気持ちをもつようになる。 ・気の合う友達や保育者と、好きな遊びを一緒に楽しむようになる。 ・新しい生活の仕方を知り、自分なりに考えて動くようになる。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○新しい環境に自分から関わり、いろいろな遊びに取り組む。 ○自分のやりたい遊びをしたり、友達や保育者との関わりを楽しんだりしながら、クラスのつながりを感じる。 ○年長児としての生活の仕方が分かり、進んで行く。
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康 ・遊具や用具を安全に使って遊ぶ。 ・園生活でのきまりを確認し、進んで守る。 ・人との関わり ・新しい保育者や友達に親しみをもつ。 ・異年齢の子どもに親しみをもって接する。 ・身の近い環境との関わり ・気の合う友達と一緒に好きな遊びをする。 ・鬼ごっこやゲーム等を友達と一緒に楽しむ。 ・身近な動植物に親しみ、触れたり世話をしたりする。 ・身近な自然の変化に、興味や関心をもつ。 ・言葉の獲得 ・自然物を遊びに取り入れる。 ・日常生活の中で目にするマークや表示の意味が分かり、文字や数に興味をもつ。 ・感性と表現 ・自分の気持ちや考えを伝えたり、相手の話を聞こうとしたりする。 ・友達と一緒に歌を歌ったり、曲に合わせて踊ったりすることを楽しむ。 ・いろいろな材料を使って、自分のイメージに合わせて作ろうとする。
	環境の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと共に生活の場をつくり、必要な約束事を考えていくようにする。 ・遊具や生活に必要な物の置き場を、分かりやすく表示する。 ・自分のしたい遊びを、十分にできる時間と場所を保障する。 ・友達と一緒に活動する楽しさを感じられるよう、クラス全体で活動する時間や場を設ける。 ・園内外の安全衛生に十分配慮し、快適に過ごせるよう、生活の中で繰り返し確認する。 ・園庭や近隣の公園の自然に触れる機会をもち、植物等にも興味や関心を向けられるようにする。
	保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・【保育者の関わり】 ・進級した喜びに共感するとともに、緊張や戸惑いの気持ちも十分に受け止め、自信や安心感をもって過ごせるようにする。 ・個人差を考慮し、一人一人の様子を把握して個々の情緒の安定を図り、好きな遊びや生活に取り組めるようにする。 ・友達を意識できるような言葉をかけたり、保育者が仲立ちしたりして、友達との遊びが十分楽しめるようにする。 ・他クラスと連携を取りながら、異年齢の子どもとの関わりをもてるようにする。
	食育	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や姿勢等、気持ちよく食事をするためのマナーに子どもが自分で気付いたり、正そうとしたりしている姿を認めながら、食事の楽しさを味わえるようにする。 ・子どもが自分で野菜を栽培する経験ができるよう、土や肥料、種、苗等を用意する。 ・植えた野菜に水やりをしたり、生長の様子を観察し、それを図鑑で調べたりできるような環境を整え、収穫を期待して大切に育てられるようにする。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度のねらいや方針を懇談会やおたより等で家庭に伝え、理解を求め、園と家庭が同じ気持ちで子どもに関わることができるようになる。 ・子どもの様子を連絡帳や送迎時等に伝え合い、保護者との信頼関係を築けるようになる。 ・進級時には、喜びだけでなく戸惑いや不安もあることを伝え、共感したり、励ましたりして、子どもの気持ちを支え合っていけるようにする。 	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で、自分なりに試したり、工夫したりする等、やってみようとする気持ちをもって意欲的に取り組む姿が見られるようになる。 ・友達と積極的に関わりたいという気持ちが大きくなっていくが、上手に伝えられず、衝突することがある。 ・当番や係の仕事の内容が分かり、進んで取り組むようになる。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○自分なりの目的をもち、試したり考えたりしながら遊ぶ。 ○気の合う友達と、自分の考えを伝えながら遊ぶ。 ○役割をもつ喜びを味わい、その役割をやり遂げようとする。
経験する内容	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで戸外の遊びに参加して十分に楽しむ。 ・自分で気付いて、汗を拭いたり衣服の調節をしたりする。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びがより楽しくなるように、考えたり工夫したりする。 ・自分の考えたことを言葉や動きで伝えたり、相手の思いに気付き、受け止めたりする。
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・周りにいる友達と刺激を受け合いながら、好きな遊びをする。 ・自分たちなりにルールを作り、そのルールに沿って遊びを楽しむ。 ・身近な動植物の世話をすることで、その生長や生態に興味や関心をもつ。
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・水遊び、泥遊び、シャボン玉遊び等、季節ならではの遊びを楽しむ。 ・相手の話をよく聞き、内容を理解しようとする。 ・体験したり、感じたりしたことを言葉で表現することを楽しむ。
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に、曲に合わせていろいろな動きを楽しむ。 ・水遊びや泥遊びを通して、不思議に思ったり試したりすることを繰り返し楽しむ。
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・試したり工夫したりできる素材や場所、時間を十分に保障する。 ・グループで取り組む活動を取り入れ、少ない人数の中で、思いを伝え合う機会をもつ。 ・当番活動の内容や手順を絵や文字で分かりやすく伝え、楽しんで取り組めるようにする。 ・気候に合わせて室内の環境を整える。 ・水遊びや泥遊び等、夏ならではの遊びを十分楽しめるように、準備や環境設定を行う。
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士の間人間関係を丁寧に読み取り、集団の中の一人一人を理解する。 ・自分なりの目的をもって頑張っている姿を励ましたり認めたりして、自信につながるようにする。 ・個々が伝えようとする思いをまずは保育者が十分受け止め、自分を受け止めてもらえる心地よさを感じられるようにする。 ・水を使う遊びを行う時には、子どもの状態を把握して衛生や安全に配慮する。 ・着替え、水分補給、休息等、夏期を快適に過ごす生活の仕方を知らせる。 ・当番活動は、例年の活動を参考にしながら子どもの実態や思いも取り入れ、無理や負担のない取り組みになるよう配慮する。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜を収穫するまでには様々な過程があるということを知り、収穫できる喜びを感じられるようにする。 ・食べ物への感謝の気持ちをもち、食事を残さず食べようとする気持ちを育てる。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・園での出来事について丁寧に伝え、友達との関わりを通して、子どもが獲得している力について理解し合い、見守っていけるようにする。 ・夏の遊びを十分楽しめるように、体調の管理と持ち物の用意等の協力をお願いする。 	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす遊びに喜んで参加し、繰り返し遊ぶ姿が見られるようになる。 ・共通の課題に対して個々に目的をもち、意欲的に取り組むようになる。 ・クラスのつながりを感じ、友達を励ましたり、認めたりしながら遊びや生活を進めようとする。 ・誰かのために何かをしたいという気持ちが強くなり、園全体に関わる活動に意欲的になる。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○自分の力を思いきり発揮することを楽しむ。 ○共通の目的に向かい、グループやクラス全体で取り組み、充実感や達成感を味わう。 ○皆のために役割をもつことに喜びを感じ、認められたことを自信につなげる。
経験する内容	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に戸外で体を動かし、全身を使っていろいろな運動に繰り返し挑戦する。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・思いきり自分の力を出したり、競い合ったりすることを楽しむ。 ・友達と共通の目的に向かって、気持ちや力を合わせてやり遂げた達成感を味わう。
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の子どもとの関わりの中で思いやりの気持ちをもつ。 ・季節の変化を感じ、身近な自然に興味をもって、見たり触れたりする。
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・公共の場でのルールや行動の仕方を理解し、皆で気持ちよく生活できるようにする。
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・園行事に関心をもち、自分たちで進めていこうとする気持ちをもつ。 ・自分の思いを伝えるだけでなく、相手の話も聞き、その思いを受け入れる。 ・園行事に向けての活動を通して、表現したり必要なものを製作したりする。
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・体を十分動かして遊べるように、戸外遊びの機会を多く取り入れる。 ・いろいろな活動を、個々やグループ、クラス全体で取り組む機会をもち、子どもが自分のこととして受け止めていけるようにする。 ・行事等を通し、役割をもつ中で自己を発揮できるようにする。 ・自然に触れる機会を多くもち、季節を感じたり、遊びに取り入れたりする。 ・天候に対応した休息を取れるよう、工夫する。
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のよさや力が発揮できるような場や機会を用意し、喜びや自信、友達から認められる嬉しさを感じられるようにする。 ・皆で取り組む面白さや嬉しさ、力を合わせる大切さ、役割を果たす喜びを味わえるよう、共感したり、個々の頑張りを認めたりする。 ・子ども同士の意見のぶつかり合いや葛藤を通して、子どもが自分で乗り越えられるよう励ましたり、見守ったりして、子どもの気持ちを支える。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な生活の場面で、簡単な栄養素とその役割について話題にしながら、食と健康の関係に興味や関心をもてるようにする。 ・野菜の栽培や世話、収穫を通して、旬の食材があることを知らせる。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会に向けての子どもの取り組みの様子を伝え、頑張っている姿を認め、自信や次への意欲につながるような言葉をかけてもらう。 	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールのある遊びの中で、競い合う楽しさを感じるようになる。 ・ できるようになったことを喜び、いろいろな活動に自信をもって、意欲的に取り組むようになる。 ・ 友達との関わりの中で、思いがすれ違い、衝突が起こることもあるが、少しずつ、相手の言動を受け入れようとする。 ・ 仲間意識が深まり、友達と協力したり助け合ったりする姿が見られる。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の力を出すことの心地よさを感じ、十分に体を動かして遊ぶ。 ○ 皆でする活動を楽しみながら、友達とのつながりを深めたり、互いのよさに気付いたりする。 ○ 共通の目的に向かって、皆で力を合わせて取り組む。
経験する内容	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びのルールを確かめたり工夫したりしながら、友達と一緒に集団遊びを楽しむ。 ・ 病気の予防に関心を持ち、健康な生活の習慣を身に付ける。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人でできないことは、友達と力を出し合ったり助け合ったりする。 ・ よいことや悪いことに気付き、自分で考えて行動する。 ・ 友達と一緒に共通の目的に向かって、考えを出し合いながら活動を進める。
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人との関わりを通して、様々な人とのつながりに気付く。 ・ 自然物を使い、工夫して遊ぶ。
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活の中で、数量、図形、文字、時間に関心をもつ。 ・ 場に応じた言葉の使い方や表現の仕方が分かる。 ・ 季節の変化に気付き、その不思議さや美しさを感じる。
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本や物語、歌等を聞いて、言葉の面白さや響きに関心をもつ。 ・ 絵本や物語に親しみを持ち、イメージを豊かにし、表現する楽しさを味わう。
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・ できるようになったことを繰り返し楽しむ時間や場を保障する。 ・ 遊びや生活の中で、友達のよさに気付くような機会や雰囲気をつくる。 ・ 皆で力を合わせたという気持ちをもてるように活動の展開を工夫し、友達と協力してやり遂げた満足感、充実感を味わえるようにする。 ・ 季節の変化に応じて室内の温度調節、換気をする。
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の力を精一杯出して諦めずに取り組む姿を受け止め、励ましたり、共感したりしながら、自信をもてるようにする。 ・ 一人一人の頑張りやよさを認め、クラス全体に知らせることで、喜び合う気持ちを育てる。 ・ 学級全体で活動の目的を理解しながら取り組めるように、提示の仕方や話し方等に配慮する。 ・ 子どもが「皆で力を合わせてできた」という実感をもてるよう、必要な時に活動を方向付けたり助言したりする。 ・ 保育者自らが季節の変化に関心を示しながら、子どもが気付けるようにする。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調理する経験ができるような機会を設け、自分たちの口に入るまでの過程を知り、食べる喜びや食べ物を粗末にはいけないという気持ちを感じられるようにする。 ・ 保護者や調理師等、自分たちのために日々調理している人への感謝の気持ちをもてるようにする。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 面談や懇談会等で、個々が成長した点について伝え、子どもの成長を保護者と共に喜び合う。今後、育てていきたい点についても伝え、子どもの伸びようとする力を支え合っていけるようにする。 	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・文字や数を使って遊ぶことを楽しむ等、知的好奇心が高まってくる。 ・自分たちの遊びを十分楽しみ、主体的に生活する姿が見られる。 ・修了や卒園を意識したり、入学に期待したりしながら、自信をもって行動する姿が見られる。 ・小学校への入学を意識し、不安を見せる子どももいる。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○思いや考えを様々な方法で豊かに表現し、いろいろな活動に楽しんで取り組む。 ○友達と共に過ごす喜びを味わい、自分たちで見通しをもって遊びや生活をすすめていくことを楽しむ。 ○成長を喜び合い、入学への期待をもつ。
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、皆で一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ・健康で安全な生活に必要な態度を身に付け、自信をもって生活する。 ・自分が経験してきたことに自信をもち、当番の引継ぎをする。 ・友達のよさや頑張っていることに気づき、互いに認め合う。 ・小学校との交流の中で、親しみや憧れの気持ちをもつ。 ・冬の身近な自然（霜柱、氷、雪、風）に関心をもち、取り入れて遊んだり、春の訪れに気付いたりする。 ・生活に見通しをもち、場に応じた行動をとる。 ・互いの成長を喜び合い、自分たちで遊びや生活をつくり出す。 ・経験したことや感じたことを皆に分かるように伝える。 ・話をしている相手の思いを受け止めながら聞く。 ・文字や数を使った遊びを繰り返し楽しみ、自分たちの遊びや生活に取り入れる。 ・修了や卒園に対する喜びや感謝の気持ちをもつ。
	心身の健康	
	人との関わり	
	身近な環境との関わり	
	言葉の獲得	
感性と表現		
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に、またクラス全体で、表現や創作を楽しめるような機会を設け、協同で活動する楽しさや充実感を味わえるようにする。 ・自分の目標に向かって繰り返し取り組めるような活動を提示する。 ・自分たちで遊びや生活をすすめられるように、時間を保障する。 ・見通しをもって行動できるよう、時間や生活の流れを分かりやすくするための表示や伝え方を、工夫する。 ・園生活を振り返る機会や環境を、子どもたちと一緒につくる。 ・文字や数量に触れられるような機会や活動をつくる。 ・小学校生活に期待をもてるように、小学生と一緒に遊んだり学校見学をしたりする機会をつくる。
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> ・試したり、発見したり、繰り返し挑戦したりする楽しさを味わい、自分たちで取り組んだ充実感を味わえるよう見守る。 ・集団生活の中で十分に自己を発揮している姿を認め、更なる自信につながるように関わる。 ・異年齢の子どもと一緒に活動したり遊んだりできるように保育者間で連携を図る。 ・生活習慣の自立について、一人一人の様子を確認し必要に応じて声をかけながら、自信をもって行うことができるようにする。 ・就学に向けての期待や不安を十分受け止め、個々が自信をもって入学を楽しみにできるようにする。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活の中で、健康な食生活に必要な習慣や態度が身に付き、友達と楽しく食事をするができるようになった子どもたちの成長を認め、小学校の給食への期待につなげる。 ・日々行っている様々な活動が、健康な体作りにつながっていることに気づき、食と命との関わりを感じられるようにする。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・この時期に見られる不安定な子どもの姿は、就学への不安から来るものであることを伝え、園と家庭とで様子を伝え合いながら、子どもの気持ちを支えていけるようにする。 ・保護者の不安を受け止め、子どもの成長を喜び合いながら、入学への期待につなげられるようにする。 	